

平成十九年度

群馬県山岳連盟総会報告

群馬県山岳連盟

会長 星野 光



群馬県山岳連盟平成十九年度総会は、五月十九日(土)午後六時から前橋市上毛会館において開催された。

開会に先立ち顧問中曽根弘文参議院議員より「教育基本法が改正され、知育に重きが置かれてきた教育が改められ、体育・徳育・知育の順でバランスのとれた教育の確立をめざすことになりました。

現在、陸上競技連盟の副会長として世界陸上を準備していますが、更なるスポーツ振興を進めて行きたいと考えており、山岳連盟顧問としてもお役に立ちたいと思っています」との挨拶があった。

続いて星野光会長が「どうしたら実のある活動ができるか研究し、地域の人たちの力を頂きながら、本年、いい活動ができ楽しい登山ができるように頑張りましょう」と挨拶した。

議案審議は平成十八年度事業報告から始まり、所用のため欠席し

た女屋事務局長に代わり、佐藤光由理事長が総会議案書に従って、総務部・編集部・遭難対策部・登山指導部・国体部・海外登山部・自然保護部・事業部・クライミング部の各部にわたって説明を行い、また、表彰受賞等および後援名義承認等、更に大会等リザルトについて紹介した。

平成十八年度収支決算報告、同基金調書、競技力対策事業収支決算書については、会計担当の八木原園明理事から説明が行われた。これらについて、竹山繁男監事から適正に処理されていたとの監査報告があり、一括して拍手多数で議案書通り承認された。

次に、平成十九年度事業計画、同行事一覧表、また、平成十九年度収支予算、同交付金・補助金・委託料の内訳について佐藤理事長から提案され、一括審議されて、これらも議案書通り承認された。次の議案は群馬県山岳連盟の規

約の一部改正についてであり、これは日本山岳協会の組織変更に伴う名称変更に合わせて、「専門部会」第二十一条 この連盟は理事会の決議を経て次の専門部会を置くことができる」と改め「専門委員会」第二十一条 この連盟は理事会の決議を経て次の専門委員会を置くことができる」とし、各部の名称を各委員会に改めるとともに、国民体育大会山岳競技大会の競技内容の改定に即応して、これまでの国体部とクライミング部を一つに統合して競技委員会とする規約改定である。これは拍手多数で承認された。

その他の議事では、田中成幸参与から、岳連参与の所属団体が休会するなど岳連から離脱した場合について質問があり、これについて八木原園明理事から学識経験者を参与会におくことができる旨の規定を設けたらどうかとの提言があり、来年度総会で明らかにすることが承認された。

総会終了後、恒例となっている岳連懇親会が催され、賑やかに親睦が深められた。

《群馬県山岳連盟参与》(敬称略)

小林次郎(登高会)、石井謙一郎(伊

勢崎)、田中成幸(登高会)、洪澤真一(境)、中原正喜(ミヤマ)、岡武久(星稜)、寺島鎮雄(松井田)、吉田茂作、田中壯吉(鵬翔)、五十嵐一夫(境)、太田忠行(独峰)、池澤常平(青空)、加藤藤夫(富士重工)、堀口貞夫(登高会)、樋口宗平(桐生)、水野金太郎(沼田)、悴田正也(高体連)、富山 真(太田)、大澤 清(高体連)、中澤安信(伊勢崎)、牛久保 拓(伊勢崎)、井下降弘(伊勢崎)

《平成十九年度主要事業計画》

一、遭難防止活動の推進

谷川岳を中心とした地域の遭難防止のためのパトロールの実施、救助活動および救助隊の技術の向上のため訓練を行う。

二、国民体育大会への参加と選手強化

第六十二回国体山岳競技関東ブロック大会(埼玉県)への参加と、「秋田わか杉国体」(秋田県)で好成績を目標とする選手強化を推進する。

三、日山協主催行事等への参加と各会との交流

日山協行事等に参加するとともに、各会との交流を深め、研修会等を通じて技術の向上、岳人とし

てのモラルの高揚を図る。

四、美化活動等市民運動への参加
尾瀬のゴミ持ち帰り運動および
谷川岳等の美化活動等の推進に協
力する。

五、岳連会報の発行

『山岳ぐんま』の発行を通じ、
会員相互の結びつきと啓発を図
る。

六、海外登山の実施

第十次群馬岳連ヒマラヤ登山を
計画する。

七、第十八回山田昇記念杯登山競
争大会の開催

群馬が生んだ登山家、山田昇お
よび三枝照雄両氏の業績を後世ま
で伝えるため、登山の基本である
体力を競い合い、登山の啓蒙、普
及、発展の一助とする登山競争大
会を開催する。

期日 九月三〇日(日)

会場 武尊山(利根郡川場村)

八、第二十三回群馬県民の日記念
事業「第三〇回県民登山大会」の
開催

「県民の日」制定記念事業の一
環として、一般県民から参加者を
募集し、県民登山大会を開催する。

期日 十一月十一日(日)

会場 吾妻郡高山村 小野子

山・子持山

九、各種研修会及び講習会の開催

指導員会および遭難救助隊が主
管して、一般会員を対象に登山技
術講習会を開催し、併せて指導員
の資質の向上を目的として研修会
を開催する。

十、岳連事業収入の確保

岳連の事業・事務を円滑に推進
するため、平成十九年度山岳写真
カレンダーの制作頒布などの事業
を行い、自主財源を確保する。

十一、山岳資料館資料の提供

利根郡みなかみ町に設置された
「山岳資料館」に展示する山岳資
料を提供する。

平成十九年度 群馬県民体育大会第二部

山岳競技会報告

群馬県高体連登山専門部

長谷川喜久男

四月二十一日・二十二日に本國
体に向けての予選を兼ねた県民体
育大会が行われた。国体の少年種
目にクライミングが導入され、縦
走とクライミングで大会が実施さ
れるようになり六年目となった。
しかし、来年度は縦走が無くなり、
リードとボルダリングの二種目の
クライミングで大会が行われる。
本年度最後の縦走競技という感慨
と意気込みを選手からも感じた。

四月二十一日・二十二日に本國
体に向けての予選を兼ねた県民体
育大会が行われた。国体の少年種
目にクライミングが導入され、縦
走とクライミングで大会が実施さ
れるようになり六年目となった。
しかし、来年度は縦走が無くなり、
リードとボルダリングの二種目の
クライミングで大会が行われる。
本年度最後の縦走競技という感慨
と意気込みを選手からも感じた。

あった富沢選手が圧倒的な力を見
せ1位、昨年の国体少年チームの
白石選手はルートを誤ったか本来
の力を発揮できずに3位に終わっ
た。2位は最近、力を付けている
高本選手であった。

この日のためにトレーニングを
積んできた選手の皆さん大変お疲
れ様でした。そして、多数の山岳
連盟の役員の皆様方のお陰で大会
が無事終了したことに、心から感
謝を申し上げ報告とします。

参加者は全体で、成年(男女一
人、少年(男女)二十八人で、昨年よ
りやや少なめであった。

まず二十一日に縦走競技が水沢
山で行われた。コースは水沢観音
駐車場をスタートし、林道から登
山道に入ると急傾斜となり、途中
に小さいピークを三つ越え、水沢
山山頂がゴールとなる。全長約二
キロメートルと短いものの、標高
差は五六〇メートルあり、負荷が
成年男子一五キログラム、少年男
子一〇キログラム、少年女子八キ
ログラムであり、山岳競技らしい
ものであった。

二十二日はクライミング競技が
ウォールストリートを会場とし
て、オンサイト・リード方式で行
われた。

まず二十一日に縦走競技が水沢
山で行われた。コースは水沢観音
駐車場をスタートし、林道から登
山道に入ると急傾斜となり、途中
に小さいピークを三つ越え、水沢
山山頂がゴールとなる。全長約二
キロメートルと短いものの、標高
差は五六〇メートルあり、負荷が
成年男子一五キログラム、少年男
子一〇キログラム、少年女子八キ
ログラムであり、山岳競技らしい
ものであった。

選8位までの選手で決勝を行っ
た。予選は完登者が五十嵐選手一
名で全体的に見ると力の差が大き
かった。決勝では男子1位の五十
嵐選手、2位の新井選手、女子1
位の長谷川選手のクライミングは
それなりに力強いものがあつた
が、その次に続く選手層の薄さを
感じさせた。

成年は一昨年度までの県代表で

タイムは、成年男子の松本選手

成年は一昨年度までの県代表で

2位 平田 香南子

主な成績《総合順位》

◆成年男子

- 1位 白石 裕也
- 2位 松本 大

◆成年女子

- 1位 西山 亜里沙
- 2位 法領田 恵
- 2位 柘植 文代

◆少年男子

- 1位 五十嵐 修平
- 2位 板野 隆徳

◆少年女子

- 1位 長谷川 美玲
- 2位 平田 香南子

第六十二回国民体育大会関東ブロック大会

山岳競技会 報告

群馬県高体連登山専門部

長谷川喜久男

期日 平成十九年七月二十八日

(主)・二十九日(日)

群馬チーム参加者

少年男子

監督 長谷川喜久男(高工)

選手 新井光(高工)・五十嵐修平(渋高)・岩元規(高工)

少年女子

監督 六本木健志(前女)

成年女子

監督 松田 龍彦

選手 法領田恵・西山亜里沙・柘植文代



二十八日、埼玉県加須市民体育館でクライミング競技が行われた。この会場は埼玉国体にも使われた、高さ十五メートルの可動壁四面からなっている。今年はクライミング・ワールドカップもこの会場で実施される。

午前中は一〇時三〇分から成年女子と少年女子の競技が左右の壁に分かれ同時進行で始まった。成年と少女はそれぞれに設定されたルートを使用し、各県別の順序に従い一人ずつ登った。

た。チーム成績は二人の到達高度(手順数)の合計によるが、この方式だと個人の全体順位も正確にわかり興味深い。

成年女子は七番目に登場し、柘植選手8位、西山選手10位でチーム成績4位と健闘した。1位は国内選手権などで上位入賞しワールドカップにも出場している榊原選手を有する千葉県であった。少年女子は三番目のスタートで、長谷川選手2位、平田選手14位で総合5位となった。こちらもワールドユース2位、国内ボルダリング年間チャンピオンの野口選手を有する茨城県がダントツの1位だった。

午後は壁二面を連続して使用する長いルートで少年男子の競技が行われた。群馬チームは六番目に登場し、新井選手9位、五十嵐選手11位とチームで7位であった。二人ともコースの手順数で半分に届かないという厳しいものではあった。1位は、ワールドユース二年間チャンピオン・ワールドカップでも入賞している安間選手を有する栃木県であった。

全体を通じて、完登者は成年の榊原選手、少女の野口選手、少年の安間選手の三人で、国内代表選手の実力を見せつけるとともに、

大会のレベルの高さを感じさせた。群馬県の選手は、これらの選手に合わせた高難度のルートを体験して勉強になったというのが印象で、ますますレベルの高くなる関東ブロックを通過するのは相応な強化が必要であろう。

二十九日、小鹿野町日尾運動場で予備計量、点呼・開始通告と縦走競技が始まった。コースは運動場をスタートし、倉尾ふるさと館の脇を通り尾根を越す登山道に入る、短い急登から始まる。尾根を下り殿谷戸の集落から牛首峠を目指し登る。また峠から下り駐車場に出て、観音院に登り、さらに観音山山頂直下まで登る。ここがコース一番の長い登りとなる。この最高地点をまた下り、林道や湖畔の長い舗装道を走り、最後に湖畔の尾根を登り下りするとゴールの運動場に到着する。全長七・六キロメートル、四回のアップダウンを経て累積標高差四五〇メートルのハードなコースである。

九時二〇分少年男子、同三〇分成年女子、同四〇分少年女子がスタート。一番早くゴールしたのは神奈川の少年男子、二人とも五七分台で1位。群馬は六七分台で岩

元選手が8位、新井選手が12位、チーム総合4位と健闘した。

その約一〇分後、少年女子が戦前の予想を越え健闘し、3位で白石選手、7位で長谷川選手がゴールイン。圧倒的に強いと思われた神奈川チームにアクシデントがあり3位に沈むなか、チーム成績で2位の栃木をタイム合計一分二〇秒差でかわし堂々の1位となった。

成年女子はクライミング4位で一番本国体に近い位置にいたが、法領田選手10位、西山選手15位でチーム7位と残念な結果となった。1位は原選手で六七分台。この原選手を擁する神奈川がチームで1位であった。

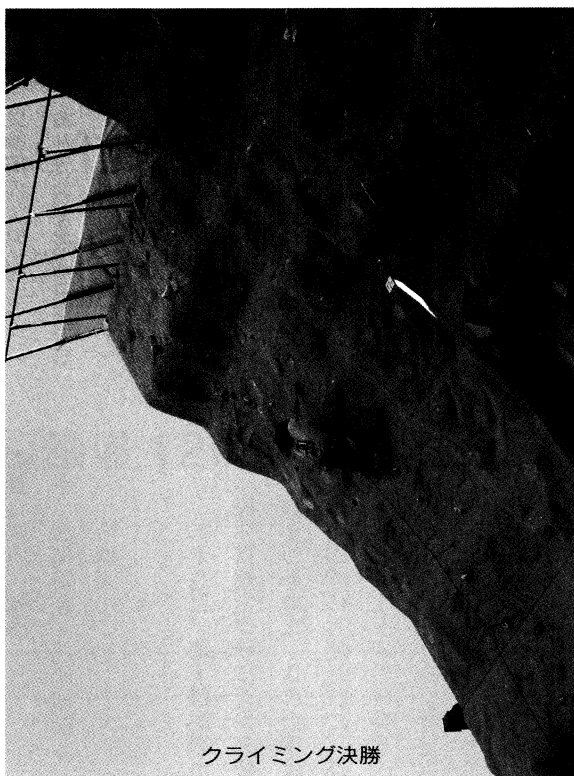
午後、表彰式が小鹿野中学校であり、総合成績が少年男子5位、成年女子5位、少年女子1位と発表された。これにより少年女子はめでたく秋田で行われる本国体に出場が決まった。

第六十二回国民体育大会 (秋田わか杉国体)

山岳競技 (少年女子) 報告

群馬県高体連登山専門部

長谷川喜久男



クライミング決勝

◎競技日程と成績

九月三十日 (日)

クライミング種目予選

第4位 (決勝進出)

十月一日 (月)

縦走種目 第9位

十月二日 (火)

クライミング決勝

第6位 入賞

◎群馬県選手団 少年女子

監督 長谷川喜久男

(高崎工業高校)

選手

長谷川 美玲

(前橋女子高校2年)

平田 香南子

(勢多農林高校2年)

白石 萌

(高崎女子高校2年)

◎会場

縦走種目Ⅱ森吉山特設コース

クライミング種目Ⅱ森吉スポーツ公園

◎事前練習

関プロ通過後、JOCジュニア

オリンピックカップをはさみ、秋

田の現地での練習を二度行い、ク

ライミングは一日試登したのみだ

が、縦走コースは六回ほど試走し

た。クライミングは高い壁などが

ある県外のジムなどで五回練習し

た。夏休みは異常に暑く、なか

か縦走練習ができず、水沢山での

練習は一回しか出来なかつ

た。

思うように練習をこなせた

訳ではないが、縦走とクライ

ミングの両方の入賞 (8位以

内) を目指し、それぞれの選

手が頑張る、大きな故障もな

く本大会を迎えることが出来

た。

◎縦走

昨年までスキー場のゲレン

デであった斜面にコースが設

けられた。前半は麓の駐車場や

ロッジを周回し、後半が斜面を一

気に登りリフトの終点がゴールと

いう、距離七・五キロメートル、

高低差約六〇〇メートル。時間配

分は前半・後半ともに三〇分とし

て目標を定めて練習し、このタイ

ムをもとにどれだけ短縮できる

か、という姿勢で本番を迎えた。

結果は二人合わせて二時間〇一

分で目標にやや足りず、個人順位

で白石が14位、長谷川が20位で、

チーム順位は惜しくも9位であつ

た。陸上や駅伝のレギュラークラ

スを揃えた他県のチームを相手に

良く健闘した。縦走は今年で最後

と言うこともあり、上位のチーム

の強さは際だった。ただ、ク

ライミングを主体のチームもあ

り、8位争いも激烈であるがそれ

に加わることができ、8位のチー

ムと三分差で入賞を逃したので

あった。

過酷なレースに、逃げずに明る

く、それぞれの目標を持ち参加し

た全てのチームに祝福あれと思え

る「最後の縦走大会」であった。

◎クライミング

屋外に昨年の神戸国体で使用し

たウォールが仮設された。昨年度

の経験者はいないが、パターンな

どの使用に大きな影響はないと踏

んで埼玉や東京で練習し、本番に

臨んだ。

予選は個人で平田が21位、長谷

川が1位 (完登) とチーム成績4

位で決勝に進出。この日、予選の

完登者は全体で三名だけで、完登

者表彰があつた。決勝は平田が16

位、長谷川が3位でチーム成績6

位と入賞することが出来た。予選

の出来が良く、決勝は順位を上げ

るのではないかと期待したが、他

のチームも実力を発揮し、この結

果となった。決勝は例年、順位の

変動がある。前日につき出場する



完登者の表彰

縦走クライマーの出来不出来が順位を左右するので、この対策をとれるチーム編成ができるだけの選手層の厚みの違いも出る。

全国各地の様子を見ると、クライミングを高校生になってから始めて実力をつけ、国体でも活躍出来る生徒が確実にいるということのは確信できた。国体はいくつかの競技ではレベルが低い等で軽んじられてもいるが、クライミングにおいては一番華かで観客も多く、施設も立派で、実力者も参加し、それでいて高校生が勝てるチャンスもあり、大きな満足感を得られる大会であろう。来年度からはポルダリングとリードの競技となり、群馬県は不利であると諦めず

開けるとも感じた。
.....

《選手の感想》

「国体を終えて」

前橋女子高校 長谷川美玲

私は一年生の時からクライミングの選手で出場し、今回は二度目の関ブロとなる。去年は、ほんの少しの差で関ブロ通過を逃していたため、今年こそはと意気込んで練習していた。今年は最後の縦走という事もあり、最後を飾りたいとかなりトレーニングを積んでいた。水沢山や県庁の階段での練習、五回にわたる関ブロのコースでの練習などをした。ただ、今年は私が縦走クライマーとなり、自分の走力が関ブロでどこまで通用する

か不安をかかえての出場であった。そして、その成果も出て、関ブロを1位で通過し本国体の出場を勝ち取った。決まったときは本当にうれしかった。

クライミングは八月のJOCジュニアオリンピックで3位になるなど調子が良く、秋田への下見も二回行き、「あとは全力を出すだけ」という感じで本国体に臨んだ。結果から言うとクライミングが6位、縦走が9位。クライミングの決勝は縦走の次の日で肉体的にキツイなかでも力を出し切れた。縦走は下見の時よりも五分タイムを縮める事ができ、気合いで実力以上の力を出せたのではないかと

思う。
国体はチーム競技であり、三人が力を合わせないと結果は残せない。来年からは競技種目が変わり、もう二度とないチームだが、本当にこの三人で国体に出れて良かったと思う。

「初国体」

勢多農林高校 平田香南子

私は国民体育大会に始めて参加しました。今までは国体なんて、自分には関わりのないものだと思っていましたが、気がついたら

出場することになっていました。正直、技術の低い私が国体に出るのはどうかな、と思っていました。が、国体に出たことで色々な面が、少しか成長した気がするの、後になって出られて良かったなと思いました。

国体に出場して印象に残ったことは、観客の多さにびっくりしたこと、緊張感です。群馬の試合順番が来るまで、とてつもない緊張感に押しつぶされそうになりました。あまりに緊張しすぎて気持ちが悪くなったりもしましたが、いざ登り始めてしまうと、今まで

の緊張も、人に見られていることも考える余裕はなくなりました。何分か過ぎて、私の腕が辛くなってきた時に聞こえた、幼稚園児の大声の応援はとても嬉しかったです。

試合の結果、6位入賞という結果を残し、私の初国体は幕を閉じました。

私が国体という大舞台で登ることが出来たのは、美玲と萌をはじめ、監督、ジムの方、先輩、友達、他県のクライマーの方々のおかげです。私に関わってくれた皆様、本当に有り難うございました。

第四回 自然植物観察会開かれる

群馬岳連自然保護委員会

須田 久男

第四回自然観察会が二〇〇七年七月二二日(日)に尾瀬アヤマ平コースで、尾瀬の美しさと保護に関心のある登山者が集合して開催されました。参加者の内訳は、一般登山者三十七名、岳連関係者九名、そして優秀な講師五名の合計五十一名と予定より多めの参加があり、平均年齢は少々高めでした

が、元気で充実した観察会になりました。コースは尾瀬戸倉スキー場を7時集合。バスで鳩待峠へ。鳩待を8時出発、横田代10時、アヤマ平11時、富士見小屋11時30分、(昼食)、小屋12時出発、富士見下14時で、14時発の定期バスで戸倉スキー場へ、15時解散とゆとりあるコースを設定し、講師の方々の



森吉山下見



国体ウオーターサイン

説明も充実しており、木々の説明や鳥、そして花と、細かい所まで説明をして頂きました。講師の方々の説明は鳩待峠を出発後すぐに始まり、ブナ・ナナカマド・オシラビソ・カエデなど木々から始まり、普段は見落としそうなゴゼンタチバナ、花の終わったマイヅルソウなどの植物の説明を聞きながら、一時間三〇分程で横田代にしました。

そこはチトウとキンコウカ・コケモモ・ウラジロヨウラク・キウスヨウラクなどの高山植物の咲く明るく開けた場所でした。そこか

ら、講師の方の説明を聞きながら一時間程歩くと目的地のアヤメ平に着きました。そこにはマルバモウセンゴケ・キンコウカ・シヨウギアヤメ・ハクサンシャクナゲなどが咲き、とても美しい所でしたが、よく見ると過去に踏み荒らされ、今もなお再生されず、人力により再生活動中の場所が多く見られました。私達は踏み荒らされて再生出来なくなった自然を見て、せめて私達が自然を破壊したり踏み荒らしたりしないよう一人一人が気をつけて山歩きをしなければならぬ事を再確認して、富士見



小屋に向けて足を進めました。三〇分程で小屋に着き昼食になりました。小屋からの帰り道も講師の方々の説明・解説は止まる事なく、自然の大切さを考える事の出来た大変貴重な一日となりました。(当日の天気は曇り。写真は松本博さんの提供です)

岳連カレンダーのカラー作品への切り替えについて

群馬岳連事業委員長

長谷川 勇

昭和から平成に変わる一九八八年に、各山岳会からの写真協力を頂き、第一作の岳連カレンダーの製作・販売をし、今回二十一作目の作品を発行することができました。

二〇〇八年版を長年のモノクロ写真からの脱皮をはかり、カラー写真のカラーンダー発行に踏み切りましたが、これまで幾度となくカラーカレンダーへの切り替えの話題は岳連理事会はじめ内外からの強い要望も聞かれてきましたが、制作費の問題でなかなか踏み切れず数年が経ってしまいました。

今回、価格据え置きを第一条件とし、これまでの表紙を含めた十三枚綴りを七枚綴りにして、二ヶ月分を一枚とし、カラーにするこ

とにより紙質も薄い光沢のものにして価格を抑え、理事会での承認を得て発行することができました。モノクロ写真にこだわる声も一部に聞かれますが、現在、一般的にはカラーであり、その反面ほとんど見られなくなったモノクロにこだわるのも良いのかと思いまし

たが、カラーに仕上げてみて好評の声も聞かれ安心しました。

使用写真が少なくなった分、表紙には四枚の四季の作品を使い、各月には蝶や動物を考えました

が、今回は山に咲く花を入れ、一般的カラーンダーには見られない地にも色を入れ、よりオリジナル的にしてみました。カラー、モノクロ、サイズ縮小等、賛否両論の聞かれる中、今後、より充実、安定した岳連カレンダーにするためにも是非ご意見をお聞かせ頂き、よりよい方向へもつていければと考えております。

また、作品につきましては、これまで製版過程の関係上リバーサル作品が原則でしたが、業者側で今回から、今、主流になってきているデジカメ作品を受け付けてく

れることになり、三点の作品を使いました。デジカメ作品への転換期でもあり、プリント代の不要も考えれば、経費削減にも今後大きく期待できるかと思っています。

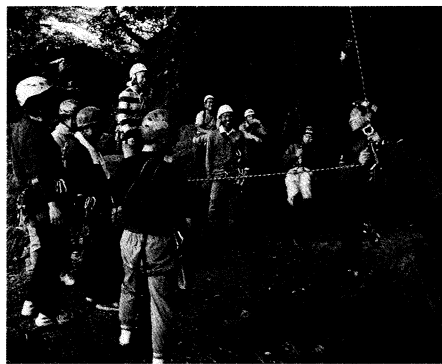
製作部数につきましては、過去二三〇〇部をピークに、山岳会の減少等ここ数年一四〇〇部で落ち着いており、今回のカラー化により、一部当たりの原価は若干高くなっておりますが、今までどおり一部一二〇〇円で販売の願いをし、最近、組織の解散や大口の販路を失っておりますが、その分、カラーカレンダーに切り替えたことによる追加購入も見られ、僅かながら売り上げの伸びも見られたことは良かったかと思えます。製作に関するご意見、ご協力ありがとうございました。

岩登り講習会報告

群馬岳連編集委員会

平成十九年五月二十七日裏妙義にて、指導委員会による岩登り講習会が開催された。初級(参加者

四人・中級(参加者十一人)コースは麻芋の滝近くの岩場で、実践コース(参加者四人)が裏谷急沢



を「本番スタイルで登る」設定で行われた。これは昨年計画された場所・クラス分けであるが雨にたたられ中止となり一年越しの実施となった。今年は天候に恵まれ各コースとも無事終了することができた。

初級コースではハーネスの選定と装着、基本的用具の説明、リードでのランナーへのクリップ手順（シングル・ダブルロープそれぞれ）、リードの墜落でビレイヤーにながら起こるか、懸垂下降技術の基礎等が実施された。

中級コースではマルチピッチクライミングでのリードへのビレイとフォローウ（セカンド）へのビレイ、宙吊りからの自己脱出（セルフレスキュー）技術等について、用具の使用・問題点・対処方法などが解説された。フォローウのビレ

イ器具としてATCは不適であること（しかし、参加者の殆どがATCしか持っていなかった）、又ロック解除ではATCガイドなら容易（解除機能を持っている）だが、ルベルソでは解除方法を習得していないと不可能であることなどを検証した。

実践コースは本番の経験を有する者に、クライミング技術を再認識してもらう意味で実施された。今回はヤマセミ倶楽部（もつばら「沢ヤ」さん）の方々も参加されたが、その感想として「支点の構築では今迄やってきた事がかなりいい加減だった」など、目から鱗の落ちる思いをされた人もいた様子で、開催者・企画した講師の目論み、面目躍如のシーンもあつたようだ。

編集子は、名ガイド著述家として名をはせたガストン・レビュファの言葉を思い出しました。「技術とはそこに内在する危険を事前に察知する知恵である」（レビュファ著『太陽を迎えに』より）各講習会や自身でのテクニク検証にあつて、まず『なぜこの技術が必要なのか』を事前に考えることは、理解をより深めるヒントとなることでしょう。

沢登り講習会に参加して

前橋山岳会 茂木 和也

二〇〇七年の群馬山岳連盟主催による沢登り講習会が七月二十八（二十九日（二泊二日）の二日間にわたって、谷川連峰・宝川中流にて開催されました。

今年は、梅雨や台風のため天気が安定しない日が続いていました。天気予報でも「初日夕方から翌日夜まで雨」でしたが、当日はマアマアで、講師・講習者総勢約二十人で充実した講習をすることができました。

講習は山岳渓流会「岩遊」の豊野則夫氏と「ヤマセミ倶楽部」の竹内秀樹氏の、お二人を中心として行われました。

まず最初に豊野講師による沢登りのパッキング・装備について説明がありました。沢登りしている際に、泳いだり、滝を登っているうちにザックに水が入ってしまうことが必ずあります。そのため、豊野講師のザックの底には水抜き穴を開ける工夫が施されていました。他にも、防水袋は古いものを内側・新しいものを外側に二重にするなどの説明がありました。

実技の内容としては、沢の流れに沿った歩行訓練から始まりまし

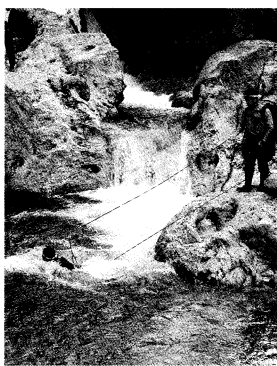
た。足でしっかりと足場を確認しながら歩行し、足はフラットに置くこと、滑る場所とそうではない場所の識別など、基本的なことを意識して行っていました。へつりも同様、沢登りには欠かせない事として講習されました。今回のルート上に一二メートルくらいのへつりをする場所がありました。自分は、足場やホールドを慎重に見極めて通過することを心がけました。

次に泳ぎについてです。ルート上泳いで渡らないといけない場面もあります。その時はパーティの中で泳ぎが得意なメンバーがトップで行きます。トップ自身が流されそうな場合、あるいは後続の為にロープを曳いていく場合には、流されてもロープがトップに絡みつかないよう注意して確保する必要があります、と教わりました。

最後に、幕営についてです。自分は泊まりの山行ではテント泊しか経験がなく、今回初めてタープ

による幕営をしました。タープの張り方でのポイントとしてタープを繋ぐ場合、タープ同士を二〇cmほど重ねる事によって繋ぎ目からの雨の浸入を防ぐ、傾斜をつけて雨の通り道を確保する等の工夫を施すことを学びました。夕食では「岩遊」の方々が釣って来てくださった渓流魚のカラ揚げと、山菜の天ぷらをご馳走になりました。

二日間の講習会を通じて沢登りの醍醐味を体験することができました。これらの体験を今後の沢登りに活かしていきたいと思っています。



加盟団体紹介

沼田山岳会

沼田山岳会は、昭和三十年（一九五五年）四月二十日に、故須田淑人を中心に、利根・沼田に在住か職場のある方々が会員として創立された。

昭和三十年に第一回、第二回と沼田市民ハイキングを行い、今年七月九日には第百回のハイキングが上高地において実施された。参加者一二〇名を数え、沼田市民の行事の一つとして定着している。そして、参加者の中から当会の会員となる人も多く、数々の山行に参加した。

当会の在籍者は平成十八年末で四百名を越え、利根・沼田の地域山岳会として活躍している。

昭和三十年代は利根川源流・剣ヶ倉沢の初登や谷川岳南面冬期未踏ルートに着目し、南面幕岩のAフェース北壁正面ルートの初登に成功している。

昭和四十年代は、次はヒマラヤという目標を持ち、昭和四十七年

には木内健一郎が、ダウラギリIV峰の遠征に参加した。

昭和五十年・六十年代には、ヒマラヤトレッキングに出掛ける会員も多くなった。会員の松永幸雄・山田昇・三枝照雄が幾多の八千メートル峰登山隊の中で大活躍をしていた。

昭和五十二年には残念なことで、永井克己さんが槍ヶ岳で滑落という事故もありましたが、活動は続き、当会初の百名山を藤塚満が完登し、現在四名が完登している。

平成になつてからは、フリークライミングを当会でも多くの会員が始め、沼田山岳会専用のクライミングボードを製作して、無雪期の毎週水曜日にトレーニングをしています。

更に上川田には藤塚ロックガーデンを現在も開拓しており、アルパインクライミングの技術の向上をめざしています。

どちらの場所も沼田山岳会で管理していますので、連絡していたければ使用できます。

沼田山岳会は、ハイキングも山スキー・フリークライミング・アイスクライミングもと、四季を通じての山行を行っています。

例会は毎月第一木曜日に、沼田市中央公民館で行っています。会員募集は随時です。

連絡先（☎〇二七八―二二―七七三四）理事長 見城正造まで。



桐生山岳会

私たち桐生山岳会（TKAC）は一九四九年（昭和二十四年）十月五日、初代会長新井彦太郎率いる「桐生山鳩岳友会」と中島孝治（三代会長）率いる「大日本機械山岳部」が合併し、発足しました。

地域山岳会として活動を開始し、県内の山々から県外、北アルプスへとその場を広げていった。冬山に関しては県境縦走、谷川岳縦走、魚沼三山縦走、そして近年二十数年は現会長を務める樋口宗平を主として、北アルプス剣岳周辺の各尾根をトレースしてきました。会として着実に力を養い、一九八二年（昭和五十七年）桐生山岳会の創立三十周年記念山行としてアラスカのマッキンリー（六一九四m）へ挑戦し、三名の登頂者を出しました。一九八五年（昭和六十年）には「あかぎ国体」成年女子で優勝をした女子会員三名が、インドヒマラヤのメントーサ峰（六四四三m、隊員数四名）に挑み、女性隊全員初登頂という成果をあげました。一九九〇年（平成二年）には創立四十周年記念山



行としてアフリカのキリマンジャロ山(五八九五m)に、一九九六年(平成八年)にはヨーロッパアルプスに登山隊を派遣しています。この間、会員の中には群馬県山岳連盟の海外登山隊はもちろんのこと、県外のヒマラヤ登山隊にも参加し、高峰登山の多くの貴重な

経験や知識を得てきました。そして、二〇〇二年(平成十四年)には世界最高峰のチョモランマ峰(八八四八m)に北稜ルートより挑戦し、隊として成功を収めた。また、直近では二〇〇五年(平成十七年)の群馬山岳連盟ナンガ・パルバット(八二二六m)登山隊に

二名の会員が参加し頂上に立った。そんな私たちの会もここ数年、新しい会員の入会も無く、また、現役会員も少なくなった。春・夏・冬の合宿といえば決まった人間が数名参加する程度である。しかし、桐生市が主催、本会が主管をする「桐生市民ハイキング」は、今年で第六十回を迎えるが、毎年OBの人たちも多数参加し参加者と共ににぎわっている。かつての賑わいを取り戻すのも会の将来も、我々、今、山へ登る者に懸かっているのではないだろうか。確かに時代は変化し人が興味を向けるものもたくさんある。しかし、素晴らしい「山」へ、その眼を向けさせるのも我々自身であると確信している。

桐生山岳会が養ってきた経験知識を後世に伝えるのも、会員同士あるいは岳連の仲間と共有すること、また、たくさんの人が居たほうが良いに決まっている。これから桐生山岳会は沢山の仲間を創り、オールラウンド・オールシーズンの登山が出来るよう頑張っていく。会員募集は随時行っています。入会を希望の方は会長樋口宗平(☎〇二七七―四四―五三七〇)までご連絡下さい。

こんなテクニク 知ってますか？

懸垂下降(英語風にはラペリング、かつては独語風にアプザイレンと呼ぶ人も)でのバックアップに關した技術のことです。

講習会では写真Aのような「バックアップ」をしなさいってことをやりますが本番で「やってるよ」って人どの位居ます。あまりやらないでしょ。理由のひとつに「テンションでロックすると解除がたい」という事が思い浮かびます。

で、解除のアイデアです。写真Aは空宙懸垂で本関心事項のバックアップが効いて停止している状態です。脚をどこかに突っ張ってロック荷重を緩めることはできません。解除手順は、

①下降器下側ロープ3m位に8ノ字結びを作りメインベルトに十分なシステム全体をバックアップする。

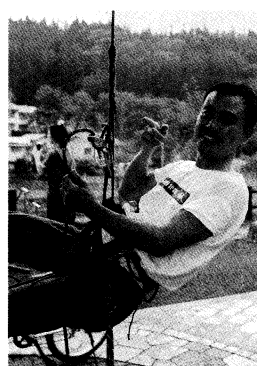
②写真Bのように片足の膝を軽く曲げて(引き寄せ、とも言える)その足に下降器下のロープを数回巻きつける。その手・ロープを③

写真Cのように下降器の直下ロープと束ねグリップビレイのように握ります。

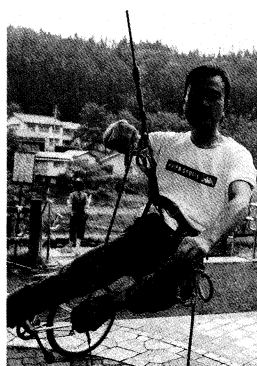
④これでロープを巻きつけた足を踏ん張ればバックアップ結びへの荷重は軽減され、解除できます。

⑤空いている手でロック解除したら荷重を下降器に移し、懸垂下に戻れます。

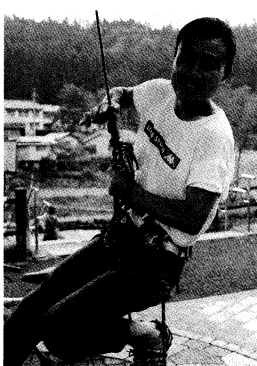
写真A



写真B



写真C

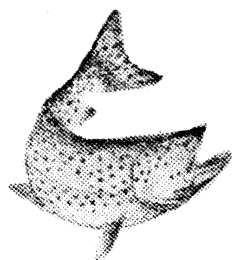


味の店 ドライバーレストラン

一本松さかい

沼田市白沢町上古語父（国道 120 号線） TEL.0278-53-2053

片品川国際マス釣場



星 野 水 産

〒378-0013 沼田市新町230-1

TEL 0278-24-1398

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町 1231 TEL・FAX 0278-23-6802

<http://annapurna.jp>

Annapurna

総合建設業 空調・衛生・消防設備工事

石原工業株式会社

本社 浜川市有馬 164
☎ (0279) 24-7111 (代)

工事部 浜川市赤城町北上野 203
☎ (0279) 56-8111 (代)

電話、弱電工事

プモリ電設

〒 379-2223
伊勢崎市小泉町 252
☎ 0270-62-2012

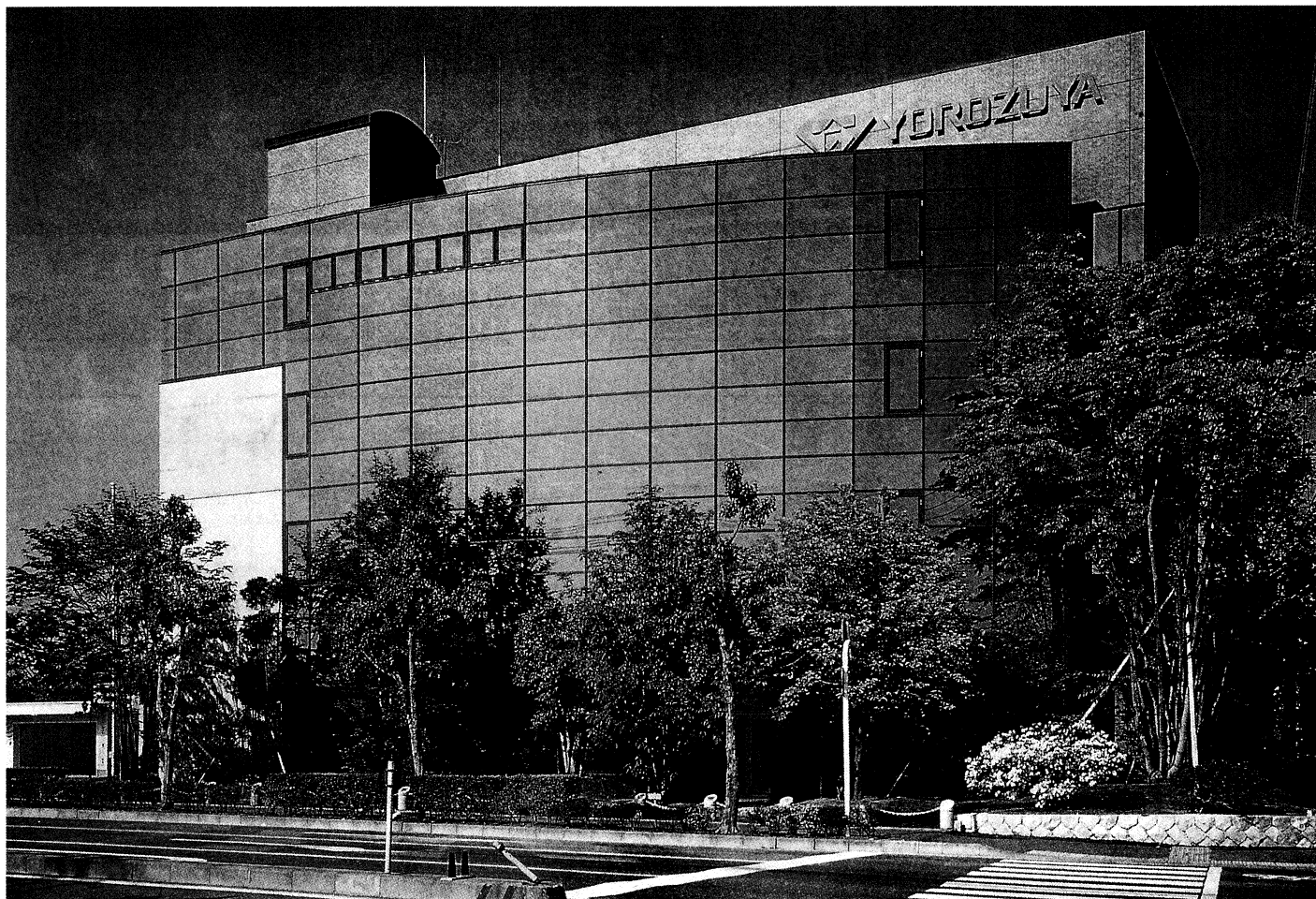


(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 1819-1
TEL 0270-21-8025
FAX 0270-21-8026

本店 (山の談話室 楼蘭)
伊勢崎市中心町 18-8
TEL 0270-25-0272



萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21 世紀の人間と環境を考える。

総合建設業



萬屋建設株式会社

会 長 星 野 光

■本社 群馬県沼田市上原町 1756-2 TEL 0278-23-4648 (代) FAX 0278-24-3371

■支店 東京都豊島区東池袋 4-2-7 TEL 03-3985-7631 FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定（公認）

株式会社 沼田自動車教習所

群馬県沼田市横塚町 1088-13 TEL 0278-24-4811 FAX 0278-23-7960

日本工業規格表示許可工場

建設生コン株式会社

本 社 沼田市上久屋 2338-1 TEL 0278-24-3111
大楊工場 沼田市利根町大楊 187 TEL 0278-56-3682

マンション

萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋 4-2-7 TEL 03-3971-3433 FAX 03-3982-5964